

令和 7 (2025)年度 事業報告

1. はじめに

小規模作業所開所から 24 年目を迎え、特定非営利活動法人認証取得から 22 年目となった令和 7 年度は、安全な事業所（トライハウスのみんなを守る！）

- ・毎月 1 回、自然災害に応じた訓練を実施します。（下記記載）
- ・感染症対策の強化

安心して利用できる事業所

- ・職員の支援等技術向上
- ・不適切な支援防止（虐待防止・身体拘束の禁止、合理的配慮）
- ・ご家庭やホームとの情報共有

に取組みました。

2. 職員状況（令和 8 年 3 月時点）

（1）就労継続支援事業 B 型

職 種	員数	常 勤		非常勤		備 考
		専従	兼務	専従	兼務	
管理者兼サービス管理者	1		1			生活介護兼務
生活支援員	4	1	2	1		生活介護兼務
生活支援員兼看護職員	1		1			生活介護兼務
職業指導員	2	1		1		
目標工賃達成指導員	1	1				
調理員	3	1		2		生活介護兼務
運転士	1				1	生活介護兼務

※常勤換算方による直接支援員数 4.6 人（配置基準 3.8 人）

（2）生活介護

職 種	員数	常 勤		非常勤		備 考
		専従	兼務	専従	兼務	
管理者兼サービス管理者	1		1			就労 B 型兼務
医師(嘱託医)						宗像医院
看護職員(生活支援員兼務)	1		1			週 1 日(1 時間)
生活支援員	9	9				
生活支援員	1		1			就労 B 型兼務
調理員	3	1		2		就労 B 型兼務
運転士	1				1	就労 B 型兼務

※常勤換算方による直接支援員数 7.9 人（配置基準 6.8 人）

(3) 資格保有状況

社会福祉士	作業療法士	介護福祉士	社会福祉主事	ホームヘルプ2級 (介護職員初任者研修修了者)	准看護師
0	1	4	1	4	1

(4) 受講修了者状況

サビ管更新	サビ管実践	サビ管基礎	相談初従事者任用者	強度行動支援(基礎)	強度行動支援(実践)
1	0	2	5	7	7

(5) 勤務年数

10年以上	5年以上10年未満	3年以上5年未満	1年以上3年未満	1年未満
1	4	8	7	2

※新規採用 支援員 3名、退職者 支援員 1名(1年未満)

3. 就労継続支援事業B型(登録 31名)の利用者状況(令和8年3月時点)

(1) 障害支援区分

障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	区分なし	平均
	1	5	8	3	2	0	12	3.87

※区分なしの方は、介護給付費の支給決定を申請されていないため、判定をしていないため。

(2) 障害種別

身体	知的	精神
0	30	1

(3) 平均利用者数

開所日数	269日
延べ利用日数	6,706日
平均利用者数	25人

(4) 平均年齢 37.8歳

4. 生活介護事業(登録 13名)の利用者状況(令和8年3月時点)

(1) 障害支援区分

障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	平均
	3	8	1	1	5

(2) 障害種別

身体	知的	精神
0	13	0

(3) 平均利用者数

開所日数	269日
延べ利用日数	3,315人
平均利用者数	12.4人

(4) 平均年齢 33.1歳

5. 研修会等参加状況（外部）

受講日	研 修 名	主 催 者	受講人数
5月13・14日	C S（利用者満足）向上研修会	社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会	1
5月27日	福祉現場の災害対応強化研修会	社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会	1
6月26日	クレーム・苦情対応スキルアップ	サンライフ熊本	1
7月29日・30日	キャリアパス対応生涯研修課程	熊本県社会福祉協議会	1
8月4日	農業と福祉の連携	九州農政局	1
8月7日	今さら聞けないクレーム対応研修	サンライフ熊本	1
8月26日・28日	キャリアパス対応チームリーダー	熊本県社会福祉協議会	1
8月29日	児童発達支援管理者基礎研修	一般財団法人 保健福祉振興財団	1
9月3日～23日	相談支援従事者初任者研修	一般財団法人 保健福祉振興財団	1
9月9日・10日	チームビルディング研修会	社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会	1
9月16日	第1回施設長・職員研修会	熊本県社会就労センター協議会	1
9月17日・18日	福祉組織のDX 研修会	社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会	1
9月22日	具体的な支援 就労	熊本障害者職業センター	1
1月15日	職員研修会 経理事務	熊本県社会就労センター協議会	1
1月26日	農福連携交付金活用セミナー	一般社団法人 日本農福連携協会	1
2月27日	障害者虐待防止・権利擁護研修	熊本県	1
3月5日・6日	先進地視察研修	熊本県セルフセンター	1
3月7日	経営労務管理セミナー	高森社会労務士事務所	1
3月9日	生産性向上推進フォーラム	生産性向上推進フォーラム	3

6. 職員研修（事業所内）

開催日	研修名・テ ー マ	講 師
7月5日	職場におけるハラスメント防止及びコンプライアンス対策	杉山 友香 様
11月15日	虐待防止、身体拘束適正化研修	稲尾、村上

7. 防災訓練

実施日	訓練内容
4月16日	地震対策訓練
4月21日	消防訓練（通報・避難）（B型）
4月23日	消防避難訓練（生介）
5月20日	防災訓練（非常用品点検）
6月 3日	水難訓練
9月16日	地震対策訓練
10月27日	消防訓練 避難訓練（生介）、通報・避難訓練（B型）
12月16日	地震訓練
12月20日	地震訓練（AED使用訓練）
1月6日	防災訓練（負傷者手当）
2月17日	防災訓練（負傷者運搬）
3月17日	防災訓練（電源運転）

8. 事故、ヒヤリハット

ヒヤリハット件数	18件	器物破損3、暴行1、離棟4、転倒2、転落2、その他6
自動車事故	2件	物損事故2
事故（怪我）報告	5件	切傷4、転倒1

9. 行事、活動

実施日	行事・活動内容
5月	カラオケ昼食会（2日）
6月	田植え交流（大光保育園）（19日）
8月	お買い物体験
10月	日帰り旅行（生介）（24日）
	日帰り旅行（B型）（31日）
	稲刈り交流（大光保育園）
11月	カラオケ昼食会（21日）
12月	もちつき会（13日）
1月	初詣（下無田神社）（6日）、大光保育園のどんどこやへ参加（8日）
2月	ボーリング会（7日）
3月	音楽発表（22日）
	お花見（27日）

10. 見学、実習体験

就労継続支援事業B型		生活介護	
6月 5日～17日	体験実習1名	4月16日～18日	体験実習1名
9月 9日～19日	体験実習1名	5月19日～23日	体験実習1名
9月24日～10月3日	体験実習1名	8月6日	見学1名
1月13日	見学1名	8月27日	見学1名
3月25日	見学1名	9月24日	見学1名
3月30日	見学1名	10月 7日	見学1名
		10月 7日～17日	体験実習1名
		11月17日～28日	体験実習1名
		1月14日	見学1名
		1月28日～30日	体験実習1名
		3月30日	見学1名

11. 広報活動

トライハウス通信を4月（No.83）、7月（No.84）、10月（No.85）、1月（No.86）約130部を発送、画図校区回覧板に掲載しました。

令和7年度より、インスタグラムを通じて日々の啓もう活動に取り組みました。

ホームページの更新ができていないため、次年度、更新する。

12. 就労継続支援事業B型（定員25人）

農業（ニラ栽培、稲作）による就労支援を行いました。

ニラ栽培に於いては、良いニラが出来れば出荷工程（そぐり）がスムーズで出荷数も増えるが収穫するニラがあつという間になくなる。逆に状態が良くないニラ（虫食いや先枯れ等）の時は、出荷工程（そぐり）に時間がかかり出荷数も減る状況であった。その為、通年安定出荷できるよう路地栽培面積を増やしたが管理、特に除草作業に追われた。また、8月中旬からはニラの芽が出る事への対応に追われました。出荷先として、大同青果とJA熊本市（学校給食）であったが、次年度以降、JA熊本市（学校給食）への出荷が無くなることで売上の大幅な減少が懸念される。熱中症対策を講じながらの夏場の管理作業をどのようにしていくか。また、これまで、全メンバーは先ず出荷工程（そぐり）からしていただいていたが、本来、一番難しく分かりにくい工程であり、葉を取り過ぎたり、枯れ葉を見落としたりがあり、支援員が工程に入らざるを得なかった。抜本的な出荷工程の見直しが必要と思われる。成果としては、そんな中でも年々少しずつではあるが、品質が良くなっていることで出荷数が増えたことです。

2・3棟のビニールハウスの手動巻き上げ式工事を実施しました。

稲作に於いては、従来の苗箱から新たに苗箱 1,000 箱購入変更しました。床土量は従来の 6 割程で床土購入費、移動に係る負担軽減、苗床もこれまでより固めたことで、移動に係る負担の軽減、田植時の差込み板を入れる工程が不要となりました。水管理も従来とさほど変わらず管理はできたが、種まき時期と育苗肥料が不足し全体的に短い苗になった。代かきハローを導入したことで代かき時間の短縮ができた。天候にも恵まれて例年になく 1 反当たり約 9 俵（例年は 6 から 7 俵）となった。課題としては、ジャンボタニシによる被害と雑草対策が必要と考えます。

生活面に於いては、朝の着替え時や昼休時に支援・介助ができるよう支援員の休憩時間を変更し歯磨きやひげそり等、身辺面支援を行いました。

水耕栽培導入の検討に於いては、業者へ連絡を行い現地見学の紹介がありましたが、日程調整が合わず行きませんでした。今後も検討します。

次年度以降も持続可能な農業による就労支援にするため、これまでの知識や経験ばかりに頼る農業、重労働の農業ではなく、身体的負担の軽減、より収益性の高い魅力ある農業を目指します。水耕栽培導入検討をすることが出来ませんでした。

『令和 7(2025)年度 目標平均月額工賃 17,500 円』に対し、
令和 7(2025)年度 平均工賃月額 22,265 円となりました。

13. 生活介護事業（定員 15 人）

利用者個々の「できる」を伸ばす。様々なことにトライしながら可能性を見つける支援を行い、安全に配慮し、毎日来たいと思える雰囲気づくりに努めました。また、保護者と電話や連絡を密にとるよう取り組みました。

「午前中は、体を動かしましょう。」で、近隣や近くの公園、商業施設（クレア）等を約 1 時間歩きました。午後は、ラジオ体操、くまモン体操、個別に口腔ケア（歯磨き支援）を中心に支援・介助しました。また、個々に折紙やちぎり絵などの創作やパズル、DVD、音楽鑑賞、字の練習、ブロックの組立で創造力の向上、などに取り組みました。

支援員の配置を 1.5 人：1 人にしていましたが、退職や休暇等により 1 月より 2.0 人：1 人の配置となりました。しかし、その間、臨時で短時間の勤務をしていただく支援員 1 名を採用し就労 B 型事業の支援員にも食事介助に入ってもらい対応ができました。不穏時等には、1 人：1 人や 1 人：2 人以上で対応することもありました。

また、不穏時や個別での支援が必要な時には、個室 2 部屋を利用することで、支援の幅が広がったとともに他メンバーへの影響も軽減できた。

課題として、支援員確保があります。また、採用できても働き続けてもらうよう重度（強度行動障害）者対応の支援スキルアップを行う教育や職場環境等の更なる充実をことが必要と考える。見学や体験利用を通じて 5 件の利用希望がありましたが、4 件受入をお断りしました。理由として、利用希望者の対応が難しいこと

評価として、令和 6 年度月平均利用者数は、11.5 人が令和 7 年度も、12.4 人とな

り、0.9名の増員となりました。

現状では、重度(強度行動障害者)障がい者の受け入れは難しいです。理由として、各スタッフの更なるスキルが必要で、今後、受け入れをしていくためには、研修、他の施設見学及び実習などを実施して、支援員個々のスキル、メンタルを上げてると共にチームワークを強化し、新規者の受け入れ体制を整える必要があると考えています。

現利用されているメンバーさんを第一に考え、今以上の支援に心掛けて行こうと思います。

1 4. 設備、備品等状況

- ・ 6月 代かきハローの購入
- ・ 8月 中央競馬馬主社会福祉財団設備等助成事業によりセレナ8人乗
- ・ 12月 ハイエースバン(就労支援に使用)を購入(納車)
- ・ 12月 就労B型棟の白蟻防除
- ・ 2月 熊本市障害者就労施設における生産活動の効率化に資するICT機器等の導入
事業補助金により米色彩選別機(他、張込昇降機・コンプレッサー)購入

1 5. 次年度に向けて

利用していただくうえでの最優先は、利用者の生命や身体のプロテクトであり、安全に利用していただくことです。虐待防止委員会、身体拘束適正化検討委員会、感染症予防対策委員会他、BCP(業務継続計画(災害)(感染症))に係る訓練や研修会の実施が義務となりました。近年、温暖化等の影響か自然災害が頻繁に起こり、大規模地震がいつ来てもおかしくないと言われる中、利用していただくうえでの最優先は、利用者の生命や身体のプロテクトであり安全です。その為、次年度も毎月、防災訓練を実施します。

会議や委員会、研修、訓練などの業務が増えており、その分、直接支援業務を削減することはできません。生産性向上のための業務改善の取り組みを行い、職場環境等における更なる改善を行い、良い人財の確保につなげる職場づくりを進め、事業の安定・継続を行い、安心して利用していただくための事業所運営に努めます。